

公立病院の経営支援は現場の意識改革から 地域医療のトータルコーディネーター

誰

もが近所の病院や診療所などで医療行為を受けられ、平均寿命も世界ナンバーワンを誇る日本の医療体制。しかし、診療報酬引き下げや医師・看護師不足など、病院経営を取り巻く問題は深刻化している。

「公立病院も例外ではありません。現在、全国の公立病院の7割以上が赤字経営で、中には診療休止や廃院になった病院もあります」

そう話すのは、株式会社TARMの代表で、公営企業経営アドバイザーの富田一栄氏だ。同社は、経営の



富田一栄 代表

コンサルタントとして、医療機関、特に公立病院の経営支援を中心に行っている。

「公立病院には、プロの経営者がいません。医師は医療の専門家ですが、経営に関しては素人。行政から派遣される事務職員は短期間で異動するので病院運営に熟達せず、経営感覚は乏しい。病院開設者の行政の首長は選挙で交替するので、経営責任が曖昧になります。病院の経営改善には、関わるすべての人の意識改革が必要です」(富田代表)

同社は、医局やナースステーションに何度も足を運んで現場の実態を把握。スタッフのモチベーションアップのため、公正な人事評価制度の導入を図るなど、経営管理システムの向上について、病院だけでなく、

管轄している行政側にも、積極的に提案を行っている。

「公立病院は行政の持ち物。予算や人事の決定権は病院職員でなく、行政側にある。例えば公平性保持の下、医療機械一つ買うにも入札が行われ、民間より高コストになってしまふこともしばしば。まずは、現状の問題点を把握してもらうことから始まります」(富田代表)

また救急医療や産婦人科など、不測の事態が起こりやすい分野は、訴訟リスクを懸念して医師離れが加速し、維持できなくなっている。継続のためには、住民の理解や協力も必要のため、地域の会合や議会に参加することもあるという。

公立病院の再生を目指す、病院・行政・住民に働きかけ、三位一体で取り組んで

もらう。富田代表は、いわば、地域医療を支えるトータルコーディネーターといえる。

1か月に20日間は地方行脚 病院支援で地域社会に貢献

富田代表は、財産コンサルタント会社の勤務時代、税務会計の専門知識と資格の必要性を痛感し税理士受験を決意。試験勉強の傍ら医療専門の会計事務所に勤め、病院経営再生に携わる。昨年独立して同社を設立し、税理士事務所を開業。

現在は愛知、和歌山、徳島などの病院の経営指導で、1か月のうち20日間近くは地方出張の毎日だという。「医療現場の先には地域住民がいる。この方々が必要とする病院に立ち直って欲しい。大変ですが、地域社

会への貢献というやりがいも感じています」(富田代表)

富田代表は展望を話す。

「病院・行政・地域住民と真剣に向き合い、病院再建の志を同じくする。そんな大手事務所にはない、きめ細やかなサービスを続け、1つでも多くの公立病院の再生を目指したい」(麻)

【会社データ】

本社 東京都中央区銀座1-

15-7 マック銀座ビル3F

☎ 03-5524-5662

設立 2008年7月

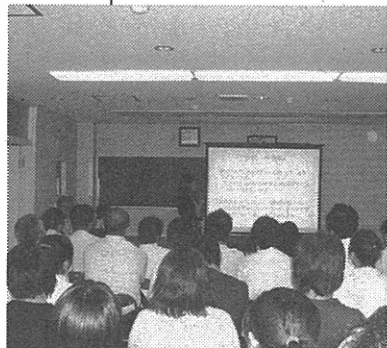
資本金 10万円

事業内容 公立病院の経営分

析・経営改革指導を中心とし

たコンサルティング

<http://www.ka-tomia.com>



A病院職員会でのプレゼンの様子